

相模原市の教育

(令和8年度版)

共に認め合い

いま
現在と未来を創る人



相模原市マスコットキャラクター
さがみん

教育を受けるならさがみはら

相模原市では、^{だから}「人が財産」を基本的な考えとして教育行政を推進してきました。誰もが「ここで学んでよかった」「ここでもっと学びたい」と思える、教育の力で選ばれる都市となるよう、取り組んでまいります。

相模原市教育委員会

目指す人間像の実現に向けた3つの基本姿勢

1 温かさや先進性のある教育の推進

一人ひとりの個性を認めて大切にするとともに、障害の有無や生育環境などにかかわらず誰もが十分に学ぶことができるよう、誰一人取り残さない温かさのある教育と、未来社会を見据え、既成概念や前例にとらわれずに進取の精神で臨む先進性のある教育を推進します。

不登校児童生徒及び保護者への支援

「さがそうみらい みんなでつながる アクションプラン」に基づいた不登校児童生徒及び保護者への支援
令和8年1月に策定した計画に基づき、多様な学びの場の確保に取り組み、誰一人取り残さない教育を推進します。

学びの多様化学校の整備 R8年度予算：8,301万円
令和11年4月の開校を目指し、教育課程の検討を進めるとともに、建築工事設計等を実施します。

中学校校内教育支援センターの拡充 R8年度予算：8,772万円
学びの機会の確保のため、支援員の配置など、中学校校内教育支援センターを拡充します。

メタバースの導入 R8年度予算：5,159万円
不登校児童生徒の居場所・学びの場をメタバースで保障し、交流や相談を通じ、次への一歩を支える場に活用します。



◇ 不登校を考えるつどいの実施
不登校児童生徒の保護者を対象とした懇談の場を設けることで、保護者が一人で悩むことがないように支援します。

◇ フリースクール等に通う児童生徒の保護者等への経済的支援 R8年度予算：1,728万円
フリースクール等に通う児童生徒の保護者等の経済的な支援を行うことで、不登校児童生徒のそれぞれの状況に応じた学びの場や居場所の確保につなげます。

◇ 不登校児童生徒の健康診断の実施 R8年度予算：318万円
学校での定期健康診断を受けることができず、健康上の問題などが見逃がされているリスクのある不登校児童生徒に対し、学校外での健康診断（内科検診、歯科検診）を実施します。

温かさのある教育の推進

◇ 夜間学級（大野南中学校分校）の運営 R8年度予算：228万円
様々な事情により中学校で学ぶことができなかった方の教育を受ける機会を保障するため、大野南中学校分校夜間学級を運営します。

◇ 通級指導教室の増設（拠点巡回型の試行）
小学校3校と中学校1校に通級指導教室（サポートルーム）を増設し、そのうち小学校2校については、教員が拠点校から巡回して指導を行います。

◇ 校内支援体制の充実
教育的な支援が必要な児童生徒の学習面や生活面のサポートを行う支援教育支援員を全校に配置します。また、非常勤介助員については、従来の週2～3日勤務職員2名分の業務を担う週5日勤務職員を増員することで、配置枠を増やします（412枠→418枠）。

◇ 学校生活支援員の配置 R8年度予算：2,565万円
有償ボランティアであった「学校サポーター」を令和8年度より会計年度任用職員として増員のうえ配置し、児童の情緒面および生活面のサポートを行います。（15校30名→25校50名）



夜間学級の様子

先進性のある教育の推進

◇ プログラミング教育の推進
「相模原プログラミングプラン」に基づいた授業を継続・改善し、プログラミング的思考を育成します。

◇ 教育データの効果的な利活用
スタディ・ログ等の教育データを活用し、教員が児童生徒一人ひとりの学習状況を正確に把握し、個に応じた最適な指導や支援につなげます。



相模原市の教育が目指す人間像「共に認め合い 現在と未来を創る人」の実現に向け、これまで取り組んできた教育を大切にしながら、次の3つを基本姿勢として、教育施策を展開しています。

このリーフレットでは、**令和8年度の主な取組**について紹介しています。

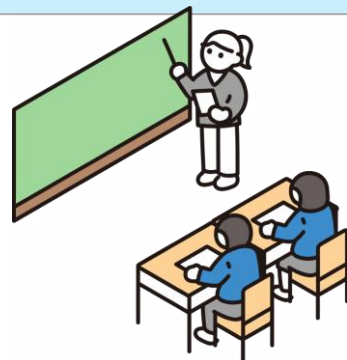
2 「縦の接続」と「横の連携」

乳幼児期から高齢期までの生涯にわたる学びを意識した「縦の接続」と、学校・家庭・地域住民等や行政が一丸となり教育に取り組む「横の連携」を軸とし、学校教育分野と生涯学習・社会教育分野に連続性を持たせた教育施策を展開します。

キャリア教育の推進

◇ 「生きる力」を育むキャリア教育

義務教育9年間を通して「つながる力」「自律する力」「見通す力」「乗り越える力」の4つの力を育むための教育課程を編成します。義務教育9年間の活動を記録し蓄積する「キャリア・パスポート」を活用し、児童生徒が自らの学びを振り返り、将来の生き方を主体的考える力を育みます。



◇ 学びの連続性を意識した教育活動の展開

幼・保・小連携及び小中一貫教育を推進することにより、学びの連続性を大切にされた教育課程等の充実を図ります。また、中学校区の教員が一堂に会する「小中一貫の日」などを通じ、学区の特性や児童生徒の実態に応じた教育の在り方等について協議しながら、小中一貫教育やキャリア教育の推進を図ります。

地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりの推進

◇ コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進

R8年度予算：393万円

学校・家庭・地域住民が目標を共有し、一体となって「地域とともにある学校」づくりを進めるコミュニティ・スクールの設置を推進します。(24校→44校)

◇ 地域学校協働活動の推進

R8年度予算：812万円

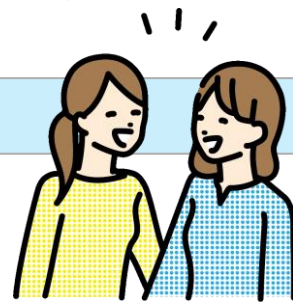
地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指すため、地域学校協働活動推進員の配置など、取組の更なる拡充を図ります。(10校→24校)

生涯学習・社会教育の振興

◇ 公民館を拠点にした地域づくりの促進

R8年度予算：4,780万円

地域住民が公民館等を拠点に主体的に企画・運営する講座等への支援により、地域づくりを促進するとともに、大学等との連携による多様で質の高い学習機会を提供します。



◇ 修学旅行費の一部支援

R8年度予算：6,730万円

◇ 課外活動助成金の増額

R8年度予算：4,905万円

◇ 中学校部活動等の大会参加報償金の増額

R8年度予算：366万円

関東大会以上に出場した際に支給している報償金を増額します。

◇ 学校給食費の負担軽減

R8年度予算：2億2,645万円

子育て世帯の更なる負担軽減に向け、国の交付金等を活用し、市立小学校及び義務教育学校(前期課程)の学校給食費について保護者負担を求めず学校給食を提供します。また、市立中学校及び義務教育学校(後期課程)の食材費の一部を支援します。

◇ スタディクーポン交付世帯の拡大

R8年度予算：2億2,645万円

低所得者世帯の中学3年生等に向けて実施している学習塾代等の支援を多子世帯まで拡大します。

◇ 通学費助成の拡充

R8年度予算：670万円

通学距離が概ね2km以上で、公共交通機関を利用する児童生徒を新たに対象として拡充します。

令和8年度は
物価高騰に伴う対応や
子育て世帯への支援を
引き続き実施します

3 教育資源の効果的な活用

相模原市の教育資源である豊富な人材や豊かな自然環境を活用するとともに、本市らしい教育施策を効果的に展開するため、教育現場の実情を踏まえ、課題のあるポイントに対して重点的な取組を実施します。

学びの環境整備



空調設備の整備の加速化

R8年度予算：9億6,746万円

児童生徒の適切な学習環境を確保するため、校舎および体育館への空調設置を加速化させます。
(令和10年夏前までに全校完了予定)



校舎の長寿命化・改修・改築

R8年度予算：88億4,135万円(長寿命化改修工事等)
6,730万円(トイレ清掃の拡充、便器のコーティング)

公共施設マネジメントのもと、計画的な改修工事を実施するほか、学校トイレの快適性向上のため、洋式化・ドライ化等の整備を推進します。



中学校給食の全員喫食の拡大

R8年度予算：6億9,759万円

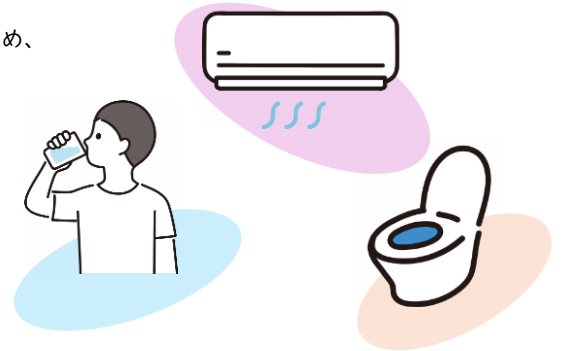
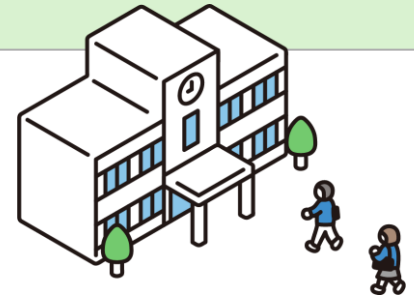
大島学校給食センターの整備や配膳室の拡充等を推進し、新たに中学校13校において全員喫食を開始します。



冷水機の試験的設置

R8年度予算：1,111万円

熱中症対策として、10校に冷水機を試験的に設置します。



教育資源の活用



博物館常設展示室リニューアルに向けた取組

R8年度予算：3,091万円

展示内容が古く、設備の老朽化が進んでいる博物館の常設展示室の魅力向上を図るため、リニューアルに向けた展示内容や展示手法を定める基本設計を行います。



プラネタリウムを活用した宇宙教育の推進

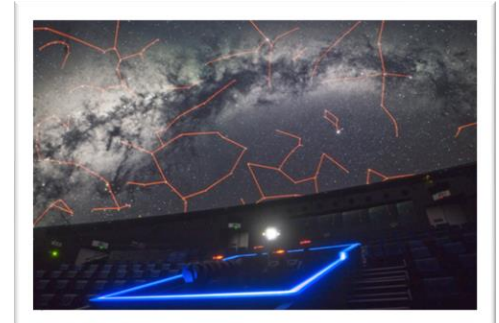
令和7年7月にリニューアルオープンした博物館プラネタリウムを活用した宇宙教育を推進します。



文化財の保存と活用

R8年度予算：355万円

文化財保存活用地域計画に基づき、文化財を適切に保存するとともに、多様な活用により親しむ機会を充実させ、地域全体で保存・活用する取組を推進します。



博物館プラネタリウム

教員の働き方改革(先生になるならさがみはら)



スクール・サポート・スタッフ(SSS)の配置

教員の事務補助として、プリントの印刷、電話取次、データ入力、授業準備の補助などを行うことで、教員が児童生徒と向き合う時間を確保するための専門スタッフを配置します。



副校長マネジメント支援員の配置

R8年度予算：3,180万円

副校長の業務負担の軽減を図るため、副校長マネジメント支援員を配置します。(10校程度)
勤怠管理及び服務に係る事務、関係機関及び外部団体との連絡調整等の業務を支援します。



市独自の処遇改善(担任手当等の加算)

R8年度予算：3億8,068万円

通常の学級担任への手当に加え、特別支援学級の担任やチームで担任業務を行う「連携・協働教員」に対して市独自の手当を支給します。



校務のDX化と生成AI等の活用

欠席連絡のデジタル化やクラウドツールの活用のほか、生成AI等の新たな技術の活用検討、効率的な校務運営を目指します。

